

2019年3月期第3四半期決算電話会議 議事録 主なQ&A

日時 2019年2月1日金曜日 14:00～15:00

○質疑応答○

Q1. 加工事業の第3四半期累計実績と通期の見通しについて

- ・第3四半期累計では、ギフト及び業務用商品の販売数量は減少したものの、利益重視の施策により増益となった。
- ・通期の見通しでは、第4四半期において引き続き販売数量が減少することを想定し、コスト改善効果を減額修正した。ただし、新商品の販売効果が早めに発現すれば、計画を上回る可能性はあると想定している。

Q2. 加工事業の価格政策について

- ・主力コンシューマ商品は直ちに値上げするという計画はないが、第3四半期におけるギフト商品及び業務用商品は価格改定を随時行っている。

Q3. 食肉事業の見通しについて

- ・今期はファーム事業での大幅減益に加え、物流事業の苦戦、震災影響、新工場稼働費用により、厳しい状況が続いている。
- ・来期以降の利益について、中計で発表している目標数値は環境変化を踏まえて再度精査する。しかしながら、食肉事業の実力値が下がっているという認識は持っていない。

Q4. 海外事業の来期見通しについて

- ・豪州はウルグアイにおいて生体仕入環境は改善するが、周辺競合国の通貨安による販売苦戦は継続する見通しである。
- ・アジア・欧州はトルコにおいて飼料工場建設によるコスト低減効果が期待できる。また第4四半期に発生を見込んでいるトルコでの一時費用は来期以降発生しない。
- ・全体としては、ウルグアイとトルコ、米国の加工食品事業に注視が必要だが、今期以上に赤字が拡大することは想定していない。

Q5. 関連企業の今期の苦戦要因と来期の見通しについて

- ・今期の苦戦の要因はスムージーを中心とした乳酸菌飲料の販売不振である。
- ・ヨーグルト・乳酸菌飲料事業において新商品投入や経費管理の徹底を行うが、業績の短期的な急回復は望めないため、関連企業全体としては来期も厳しい局面が続くと見込んでいる。

Q6. 株主還元について

- ・配当性向は純利益の30%と公表しており、現在は期首に発表した配当予想及び配当方針を変更していない。しかしながら最終決定を行っていないため、配当について明確な結論を申し上げることは差し控えたい。

Q7. 消去調整について

- ・セグメント利益とIFRSでの営業利益の乖離を修正するため、多額の消去調整が発生している。
- ・来期以降の消去調整については、新しい段階利益を採用するなど、分かりやすい方法を検討する。

以上